

# 施策分析シート（平成28年度）

No1

<b>施策名</b>	新産業・新事業の創出支援	<b>施策No</b>	05-02	<b>部課名</b>	産業経済部経営支援課
<b>関連部課名</b>		<b>課長名</b>	陣内	<b>内線</b>	455
<b>行政評価</b>	<b>分野</b>	Ⅲ	産業革新都市		
<b>事業体系</b>	<b>政策</b>	05	活力ある地域経済づくり		

**目的** 区が主体的役割を果たすことで構築する「産学官の顔の見えるネットワーク」を軸とした「荒川版産業クラスター」の形成を通じて、「新事業やベンチャーの創出」、「既存企業の第二創業や経営革新」を促進し、地域産業の活性化を図る。

指	幸福実感指標名 (5段階評価)	指標の推移			指標に関する質問文
	25年度	26年度	27年度		
①	まちの産業	2.52	2.50	2.51	荒川区の企業（お店や町工場など）は元気で活力があると感じますか？
②					
③					
④					

  

標	施策の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
	25年度	26年度	27年度	28年度 見込み	目標値 (28年度)		
①	新製品・新技術の開発件数	3	4	4	5	5	MACCプロジェクト参加企業の開発等件数
②	産学連携研究開発助成件数	4	1	1	5	5	年間件数
③	ビジネスプランコンテスト応募数	15	-	34	-	35	※隔年事業のため、目標値は29年度
④							
⑤							

**現状と課題（指標分析）**

○区内では、これまでの長引く景気の低迷等により事業所の減少傾向が続いているが、区内事業所の約2割を製造業が占めるモノづくりの盛んなまちである。また、都心や筑波研究学園都市とのアクセスが良好な立地環境にあり、日本のモノづくりを支える高度な技術力を持つ企業が集積している。

○荒川区が持つ産業集積や地域資源の豊かさなどのポテンシャルを最大限活かし、荒川区のモノづくりにかかわる企業、大学、研究機関、金融機関、支援機関等による「産学官の顔の見えるネットワーク」の構築を軸とした、技術と知恵を結集した新たな事業を絶え間なく生み出していく「荒川版クラスター」を形成することが必要である。

**今後の方向性**

《今までの成果及び指標分析を踏まえて》

○平成25年度に実施した製造業実態調査により、新製品開発に対する意識の高さ等が明らかになったMACC会員企業の優位性を更に高めるための支援を重点的に行っていく。

○多様化する企業ニーズに応えられるよう、近隣区及び近隣区の大学と連携を深めるため、ネットワークの構築を進める。

○区内企業の減少傾向を踏まえ、新ビジネスの発掘を積極的に進め、新陳代謝を通じた区内産業の活性化を図る。

施策の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
重点的に推進	重点的に推進	荒川版クラスター形成に向けたMACCプロジェクトや産学連携の推進は、区内産業活性化のためには極めて重要であり、当該施策の優先度は極めて高い。

施策を構成する事務事業の分類						
事務事業名	事務事業 No	決算額（千円）		施策推進のための 分類		分類についての説明・意見等
		26年度	27年度	28年度	29年度	
モノづくりクラスター形成促進事業	05-02-05	21,502	21,160	重点的に推進	重点的に推進	荒川区の地域経済活性化のためには、モノづくり産業の集積や地域経済の豊かさを活かした「産学官の顔の見えるネットワーク」構築を軸とした「荒川版クラスター」の形成に向けた取組が極めて重要である。
産学連携推進事業	05-02-06	4,397	4,319	重点的に推進	重点的に推進	MACCプロジェクトを推進し「産学官の顔の見えるネットワーク」を構築するために、大学等有する専門知識を活用した産学共同による新製品・新技術開発を支援することは極めて重要である。
地域産業創出プロジェクト推進事業	05-02-07	0	3,840	重点的に推進	重点的に推進	本事業は、ビジネスプランコンテストや近隣区とのネットワーク組成を柱とした産学連携支援などを通じて、産業の創成と活性化を目的としており、従来とは異なる新しいアプローチでの企業支援を積極的に推進していく。
合 計		25,899	29,319			